

NJ素流協 News

平成26年5月10日

第112号

平成26年5月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農国会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

ノースジャパン素材流通協同組合 の事業展開の方向について

ノースジャパン素材流通協同組合

理事長 下山裕司

平成26年度におけるNJ素流協の事業計画等については、5月に開催される第11回通常総会において審議・決定され、それに基づいて適切な事業運営を進めて行くことになるが、それに先立って、現下の森林・林業をめぐる環境の実態と変化について把握・認識して、今後の事業展開の方向を見定めることが重要であると考える。

▽森林・林業をめぐる環境の激しい変化

わが国の木材需要・供給の構造の変化について見てみると、木材の需要構造については、10年以上前から徐々に変化の兆しがあったが、この3、4年の間にムク材の製材品から、合板材、集成材等のエンジニアリングウッド(改良素材)へと急激に転換が進み、かつ

素材の供給先が中小工場から大型工場へと移行してきている。このことは、製材加工業、集成材・合板製造業の淘汰・縮小再編を促すことにつながるかと考えている。

また最近では、国の政策によるRPS制度(新エネルギー利用法)からFIT(再生可能エネルギー電力買取制度)に至る新制度によつ



(株)ウツティかわい 木質バイオマス発電所

て、これまで構想されてきた多くのバイオマス発電計画のうちの幾つかが着手・実行の段階に入った。このことは、これまで未利用材として扱われていた木質バイオマスの新たな需要が発現したことになる。

一方、供給については、戦後から営々と造成されてきたわが国の人工林資源が成熟して利用期に入ってきたが、素材生産業をみると、小・零細規模の業者が圧倒的に多く、従事者の減少や高齢化が他産業に比して顕著である。高性能林業機械の導入や生産性の向上に力を傾注してはいるものの、増大傾向にある木材需要量に必ずしも対応し得ていない現状にある。また国産材の伐採量は徐々に増えてきたが、伐採跡地の再造林が進まず、造林未済地が増大しており、わが国の森林・林業の持続可能性を考えると、将来に向かって大きな問題となるであろう。

さらに、木材の需要と供給を結ぶ物流機能、すなわち運搬能力を

みると、運送事業を担う業者はそのほとんどが零細企業かつ地域的に偏在する実態にあり、大量かつ計画的・継続的な木材運搬に不安がある。

▽N J素流協の中・長期的な事業展開の方向

1 劇的な変化を見せる北東北地域における森林・林業の動向

近年、N J素流協が事業を展開する北東北地域における森林・林業をめぐる環境には、見方によっては極めて大きな変化が起こっている。合板製造業の国産材使用率の増大、集材材工場や製材工場の規模の拡大と新規建設、木質バイオマス発電所の新規設立等々に代表されるように、国産原木需要の増大と多様化が顕現化している。ただ素材及び木質バイオマス原料の供給側の実情を見ると、需要側の多様な要求に的確に対応できるかということについては、今後かなりの努力が必要となるであろう。国産材時代の到来の掛け声とともに、一口に、木材のカスケード

利用の推進、間伐小径材と未利用材の活用、サプライチェーンの構築、集運材の効率化等と言うが、未経験や未知の部分が多い。これらの諸課題を解決して実際の事業の中に定着させていくには、前途に幾多の問題が山積しているが、これらの課題を解決し、乗り越えていく時間はあまり残っていないことを認識する必要がある。

2 N J素流協の進む道とその方向

平成23年3月に太平洋東沿岸を襲った地震・大津波による大災害の被害は甚大であり、その影響は各般に未だ後遺症を残しているが、東北地方の森林・林業にも多大の被害を与え、N J素流協の事業運営も頓挫を余儀なくされた。この難事の際して、組合員各位の協力、新たな販路の開拓及び組織・業務の見直し等に努めた結果、ようやく震災前の状況にまで復してきた。再度のスタート台に立ったという認識の下に、N J素流協は、現下の複雑・多岐に変転する森林・林

業をめぐる環境にあつて、幾多の課題の解決に前向きに取り組む必要がある。そのため、次の事項をN J素流協の拠って立つ基本姿勢として堅持しながら、チャレンジ精神を忘れずに事業運営に努めていく考えである。

①原木のカスケード（階段状）利用の推進

組合員の生産する原木には俗にいうA、B、C、D材があるが、多様な販路を開拓し、素材から木質バイオマスまで販売・流通に乗せることに努める。

②連続的森林作業の導入と定着化

森林作業には、大きく分けて伐木集材作業と造林作業（植栽と森林整備）があるが、この二つの作業を連続したものとして捉え、伐木集材者が引き続き造林作業も行うか、又は伐木集材者と造林者が連携し、連続した森林作業を行う新たな作業仕組みを導入し、定着化を図る。植栽作業には前作業として地拵え作業があるが、木質バ

イオマスの利用によって地拵え作業で発生する未利用材の活用が可能となる。そのためにも、伐木集材作業と造林作業を同一人が行うオールラウンド・プレーヤーの養成が必要不可欠となる。

③低コスト再造林システムの開発・実用化・定着化

平成22年度から24年度までの3年間、「フオレスト再生モデル実証



カラマツコンテナ苗 植栽試験地

事業」を組合員の協力の下に実施してきたが、これは低コスト再造林システムの構築を目的とした事業であった。この実証事業に引き続き、低コスト再造林システムの開発・実用化・定着化を促進する。

④情報組織としての一層の充実

NJ素流協は、自らがモノを作ったり運んだりはいしない。素材及び木質バイオマスの供給側と需要側を円滑に結びつけて両者の間を適切に流通させる事業を行っているが、これらの業務は全て情報によって実施している。したがって、適切かつ円滑な情報業務を実行することが組織・業務の根幹である。今後とも情報組織であることを深く認識し、一層の情報機能の充実を図っていくこととする。

⑤触媒的機能の充実・深化

「触媒」とは化学用語であり、他の物質同士の化学変化作用を速めたり遅らせたりする物質をいうが、NJ素流協は需要者と供給者の双方に働きかけて、両者の間を適切に結びつけるために双方の事業活動・変化に即して自らも変化しつつ、サプライ・チェーン(供給の鎖)の最適化を図るために「触媒的機能」を発揮し続けることとして、その充実・深化を追求して

行くこととする。

* * * * *

最後に、これまで「NJ素流協の事業展開の方向について」を述べてきたが、これらの全てが着実に進展するためには組合員各位の絶大なるご理解とご協力が不可欠である。先に述べたように、現下のが国の森林・林業は大きな変化の真只中にある。我々は一緒に進んで行きましょう。

トピックス

平成25年木材統計を公表

農林水産省は、平成26年4月15日に平成25年木材統計を公表した。

1 素材需給の動向

平成25年の素材需要量(製材工場、合単板工場、木材チップ工場への素材入荷量)は2602万9千m³で、住宅需要が増加したこと等から、前年に比べて137万3千m³(5.6%)増加した。このうち、製材用は1727万1千m³対

前年比106.3%、合板用は418万1千m³(対前年比109.0%)、木材チップ用は457万7千m³(対前年比100.1%)であった(図1)。

素材供給量に占める国産材の割合は75.5%となり、前年を0.6ポイント上回った。

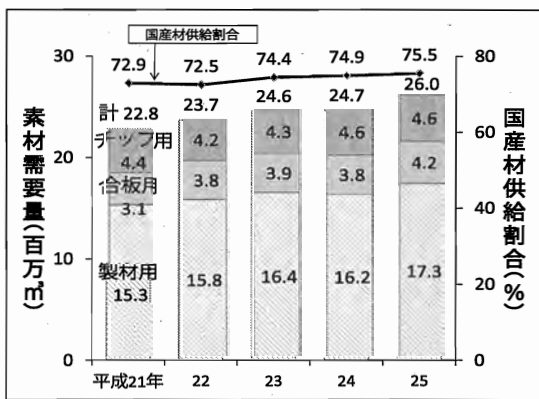


図1 素材需要量の推移

2 製材品、合板、木材チップ

製材品出荷量は1010万m³で、前年に比べて79万8千m³(8.6%)増加した。普通合板生産量は281万1千m³で、前年に比べて26万2千m³(10.3%)増加した。特殊合板(プリント合板等)生産量は65万4千m³で、前年に比べて1万4千m³(2.2%)増加した。木材チッ

プ生産量は645万2千tで、前年に比べて59万1千t(10.1%)増加した。

主要木材の需給見通しを策定(平成26年第2四半期及び第3四半期)

林野庁は、平成26年3月26日に平成25年度第4回木材需給会議を開催し、「主要木材の需給見通し(平成26年第2四半期及び第3四半期)」を策定した。なお第2四半期は4月から6月、第3四半期は7月から9月を示す。

1 経済情勢等

平成25年度の実質GDP(国内総生産)成長率は、公共投資や消費税率引き上げ前の駆け込み需要発生等により、2.2%と高めの成長が見込まれている。平成26年度は駆け込み需要の反動があるものの、マイナス成長にはならず、0.5%の成長が見込まれる。

平成25年度の新設住宅着工戸数(見通し)は、対前年度比110.8%の98.9万戸、平成26年度については、対前年度比87.0%の86万戸と

想定されている。

2 主要木材需給動向

(1) 丸太・輸入製材品

平成26年第2四半期の国産材製材用丸太の需要は、消費税率引き上げの反動による住宅着工減が想定されるが、木材利用ポイント等国産材への追い風も続くと想定され、前年同期比で若干減少する見通し。第3四半期も前期の流れを受けて堅調に推移する見通し(図2)。

国産材合板用丸太の需要については、合板用原木不足が解消されることによる需給バランスの適正化、構造用合板の厚手化、型枠合板やフロア合板等新規用途にも使用されることが期待されるため、前年同期比で増加する見通し。第3四半期も前期の流れを受けて前年同期比で増加する見通し。

輸入丸太の需要については、26年第2四半期は高水準だった前年同期に比べ大幅に減少、第3四半期はほぼ前年並みとなる見通し。

輸入製材品の需要については、第2、第3四半期とも前年同期に比べ減少する見通し。

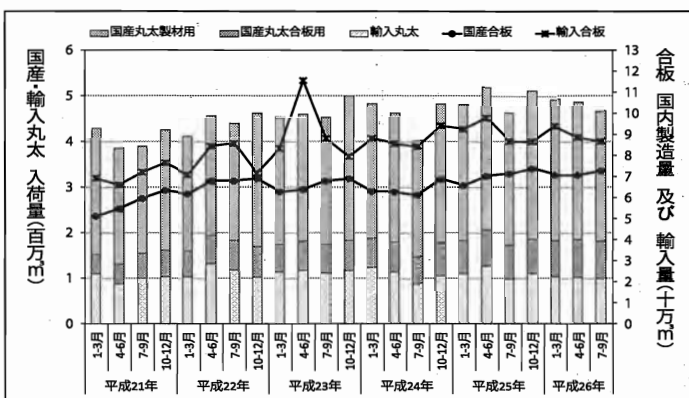


図2 丸太入荷量の推移(H26年1月以降は見込み)

(2) 合板・構造用集成材

国内製造合板の需要については、消費税率引き上げの影響はあるものの、実需は堅調に推移するものと見込まれる。輸入合板の需要については、第2四半期は前年同期比で減少、第3四半期は堅調な建設需要に支えられ、前年同期に比べ増加する見通し。

国内製造構造用集成材の需要は前年同期に比べ若干減少、輸入集成材の需要は国内需要の減衰を受け、低い水準となる見通し。

木質バイオマス発電所 燃料用の原木納材方法 説明会を開催

去る平成26年4月11日(金)、宮古市区界の「道の駅」区界高原」において、4月1日より本格稼働している(株)ウツティかわい区界発電所用の燃料原木の納材方法について説明会を開催し、組合員48名が参加した。



区界発電所は木質燃料専焼の発電所で、5千800kWの発電出力を有し、その燃料必要量は年間10万m³(含水率50%換算)となっている。

NJ素流協は、このうち3万6千m³

を納材することとしており、積極的な納材が必要となってきている。

説明会では、納入する材の樹種や規格、送り状の記入方法などの説明が行われた後、トラックスケールの場所へ移動して、重量の測定方法の実習を行った。その際に屈強の若者3人がスケールに乗ると、240kgの表示がなされた。

なお、今回発電所の燃料として納入できる材は、間伐材や、経営計画樹立林、国有林、保安林から生産された材となっている。

事務局職員紹介

NJ素流協に4月から新しいスタッフが加わりましたのでご紹介します。

【自己紹介】①所属②出身地③趣味・特技④皆様へ一言

野田 秀一 ①経営企画部②紫波町
③食べ歩き、体を動かすこと④4月から経営企画部で木質バイオマス安定調達、安全装置などの業務を担当させて頂いております。一つでも多くお役に立てればと思っております。何卒宜しくお願い致します。

今月の名木・巨木 18

(一関市)

一関市指定天然記念物

エドヒガン(桜)

指定：2001年7月1日

所在：一関市厳美町字滝ノ上



長かった冬が終わり、北東北にもようやくやぐ花の季節が訪れた。

一関市指定天然記念物のエドヒガンは、一関インターチェンジから名勝・厳美溪に向かい、厳美溪沿いの桜並木を進むと、右手側の温泉神社境内にある。

エドヒガンは、本州・四国・九州に

自生するバラ科の落葉高木で、長寿なことから各地に名木・巨木が多く存在する。盛岡市の石割桜も同種である。

温泉神社のエドヒガンは、樹高約15メートル、幹周約3・6メートル、推定樹齢370年から400年(指定当時)とされる。

厳美溪には、戦国時代に当地を治めた武将、伊達政宗(1567〜1636)が植栽したとされるエドヒガンの老木が一部残っており、政宗の諡号(没後贈られた名)から「貞山桜」と呼ばれている。温泉神社のエドヒガンも、



貞山桜

これと同時代に植栽されたものと考えられている。

厳美溪は、「東北・夢の桜街道 桜の札所・八十八カ所」の一つに選ばれている。これは、東北地方の復興支援

を目的として設立された東北・夢の桜街道協議会が、東北六県の桜の名所から八十八カ所を選定したものである。

この季節、溪谷美と桜を眺めながらおだんごを頂く至福の時を味わえる。

冗談欄 「昔6年 今21年」

これは定年後に夫婦二人が過ごす年数である。

昔とは大正10年、今は平成24年。現在は「定年後は余生」なんて悠長なことを言ってはおられない。

20年以上もあるのだから余生ではなく、新しい人生である。

このような長い期間を、家の中で四六時中顔を突き合わせていることが危機状態であるということは想像に難くない。

庭の雑草でもとってやろうかと草を抜き、それが奥さんの大事に育てている花の芽であつたりすると、益々信用を無くすどころか、険悪な雰囲気になる。

奥さんは主人在宅ストレス症候群を発症してしまふ。

適度な距離を置き、お互いに理解し合うことが必要なのである。

そのような夫婦のための相談所があちこちに出来ており、そこには二人の関係を回復させるための質問票がある。

夫用と妻用があり、夫用の設問は、「あなたが家に居ると奥さんは憂鬱そうですか?あなたは奥さんの意見を聞かない方

ですか?あなたは趣味やスポーツに消極的ですか?」などである。

一方、奥さん用は、「ご主人が家に居ると常にうつとうしいと感じますか?あなたはご主人に意見を言えないほうですか?ご主人はあなたの意見を聞かないほうですか?あなたは趣味やスポーツに消極的ですか?」など立場を変えた同じ内容の設問となっている。

これらの設問を見ると、答えが自然と見えて来、一つの生活スタイルが浮かんでくる。

夫が家に居ると奥さんはイライラしたり、うっとりうしく感じたりして、精神障害を起こす危険性があるので、趣味やスポーツを見付けて外へ出るようにすること。そして、奥さんに色々言うストレスがたまるので、奥さんには要求などせずに、言われたことに従うようにすること。

そのような生活スタイルが、二人の関係を長続きさせる秘訣であるようだ。何のことはない、「父ちゃん元気で留守が良い。」なのである。

平成 26 年 4 月分の販売実績

樹種	合板用 (m ³)			その他 製材用等 (m ³)			計 (m ³)		
	当月出荷量	前月比(%)	前年同月比 (%)	当月出荷量	前月比(%)	前年同月比 (%)	当月出荷量	前月比(%)	前年同月比 (%)
スギ	8,548	108.3	139.0	3,396	70.4	102.2	11,943	93.9	126.1
カラマツ	1,370	89.1	26.3	2,510	60.7	232.7	3,879	68.4	61.7
アカマツ	3,436	208.3	131.1	340	83.2	58.3	3,776	183.4	117.9
その他針葉樹	0	0.0	0.0	196	79.4	978.5	196	79.4	978.5
広葉樹	0	*	*	534	355.8	1,058.5	534	355.8	1,058.5
合計	13,353	120.5	95.5	6,975	71.4	138.0	20,328	97.5	106.8

樹種	バイオマス用素材 (t)		
	当月出荷量	前月比(%)	前年同月比 (%)
スギ	399	106.1	*
カラマツ	97	*	*
アカマツ	14	36.6	*
合計	510	123.1	*

樹種	今年度累計			
	合板用(m ³)	その他 製材用等 (m ³)	計(m ³)	バイオマス (t)
スギ	8,548	3,396	11,943	399
カラマツ	1,370	2,510	3,879	97
アカマツ	3,436	340	3,776	14
その他針葉樹	0	196	196	0
広葉樹	0	534	534	0
合計	13,353	6,975	20,328	510
目標達成率(%)	7.6	8.9	8.0	1.4
計 画 量(案)	176,000	78,000	254,000	36,000

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成26年4月の需要動向】

- スギは、順調な引き合いが続き、当面この横ばい状況が続くと予想。
- カラマツは、集材材の引き合いが強く高値を維持、今後もこの状況が続くと予想。
- アカマツは、出材好調により在庫過多の状況。一時的に入荷制限が予測される。

このうち、合板工場への出荷量は、組合員出荷が16万4303m³(前年度より1万4911m³増)、システム販売が4197m³(前年度より2795m³減)、計16万8500m³(前年度より1万2116m³増)であった。樹種別では、スギが8万2820m³(前年度より3万4977m³増)、カラマツが5万3307m³(前年度より2万917m³減)、アカマツが3万2373m³(前年度より2325m³増)となった。合板工場以外への出荷量(すべて組合員出荷)は、6万252m³(前年度より3701m³増)であった。

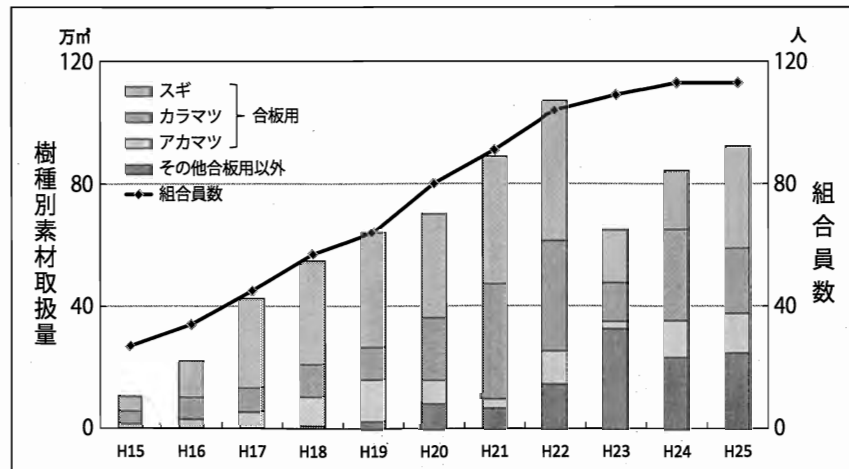


図 N J 素流協素材取扱量の推移

N J 素流協 平成25年度年間取扱量

N J 素流協の平成25年度年間取扱量は23万753m³となり、前年度より約2万m³多く、対前年度比109.5%であった。計画量25万8千m³に対する達成率は89.4%であった。

このうち、合板工場への出荷量は、組合員出荷が16万4303m³(前年度より1万4911m³増)、システム販売が4197m³(前年度より2795m³減)、計16万8500m³(前年度より1万2116m³増)であった。樹種別では、スギが8万2820m³(前年度より3万4977m³増)、カラマツが5万3307m³(前年度より2万917m³減)、アカマツが3万2373m³(前年度より2325m³増)となった。合板工場以外への出荷量(すべて組合員出荷)は、6万252m³(前年度より3701m³増)であった。

取扱量と組合員数の推移は図のとおり。平成26年度は、合板、集材材等用材のほか、木質バイオマス用素材の出荷が本格的に始まるため、組合員の皆様により一層のご協力をお願い致します。